



ASIA
CENTER
ODAWARA

名画サロン

- アジアセンターODAWARA名画サロン
- 映画 小津安二郎監督「小早川家の秋」
- 日時 2001年7月21日(土) 10:00~14:30
- 会場 アジアセンターODAWARA 「箱根」

追悼・新珠三千代



小早川家の秋

小早川家の秋

1961（昭和36）年◎宝塚映画＋東宝

スタッフ

製作	藤本 真澄
	金子 正旦
	寺本 忠弘
脚本	野田 高梧
	小津 安二郎
撮影	中井 朝一
美術	下河原 友雄
音楽	黛 敏郎
衣装	浦野染織研究所
監督	小津 安二郎

キャスト

小早川 万兵衛	中村 鴈治郎
長男の嫁（秋子）	原 節子
長女	新珠 三千代
その夫	小林 桂樹
次女	司 葉子
長女夫婦の息子	島津 雅彦
磯村（鉄工所）	森繁 久弥
佐々木つね	浪花 千栄子
その娘	団 令子
加藤 しげ	杉村 春子
北川	加東 大介
その妻	東郷 晴子
小早川醸造番頭	山茶花 究
〃 店員	藤木 悠
農夫	笠智 衆
その女房	望月 優子

解説 井上和男

「酒はほどほど、仕事もほどほど、余命いくばくもなしと知るべし」— 小津さんの手帖に書きとめてあった昭和36年（58才）の、年頭所感である。

この正月、小津さんは、コンビの脚本家野田高梧夫妻と東宝映画『小早川家の秋』のシナリオ執筆の為、積雪繼々の信州蓼科高原に籠った。旧臘12月28日からの越年迎春というわけだが、いざ両先生が籠るとなると、高原は雪だろうと何だろうと、千客万来となる・・・筈だったが、実は皆遠慮して、誰も陣中見舞いに行かなかった。

この年は大雪だった故もあるが、となると、両先生、仕事も手につかない。

「オーイ、雪景色がいいぞ」「オーイ、スケートは今滑り頃だぞ」「オーイ、雪見酒は最高だぞ」。笠さん、佐田さん一家へ電話攻勢だ。夫々スケジュールが合わないとは断ると、須賀不二男、桜むつ子、三上真一郎などの常連俳優や、松竹プロデューサーの山内静夫、果ては新米監督の私にまで電話がかかってきて、「とにかく東興園のシューマイが喰いたい。持って山に遊びに来いよ。」などとお誘いがかかる。

挙句、小津さんの 1 月 11 日の日記によればついに下山を決めている。— 曰く —
「題名『小早川家の秋』とのみ決りて、話の筋何もなし。さて、酒もほどほど、仕事の方
も小早川（こはやかわ）と思ひての下山なり。」

キャストを見ればお判りのように、小津さんが初めて東宝で撮る映画なのだが、絢爛た
るスタッフ達を押しつけられて、仲々脚本が難渋したことは事実である。『晩春』以来、小津
映画には欠かせない女優となった原節子も、実は当時東宝所属だったし、『秋日和』では、
司葉子まで東宝から借りているので、流石の小津さんも、大プロデューサーの藤本真澄か
ら頼まれれば、お礼奉公の意味も含めて、東宝宝塚撮影所に出向せざるを得なかった。

然し出来上がった映画は、初期執筆時の難航もウソのように、小津・野田コンビ晩年の傑
作となった。

話は、造り酒屋の大旦那小早川万兵衛（先代鴈治郎）の飄逸な人生に、亡くなった長男
（大学教授）の嫁秋子（原節子）の再婚話、長女（新珠三千代）夫婦（夫は小林桂樹）の
経営苦勞、次女（司葉子）の縁談をタテ系に、万兵衛の妹（杉村春子）、万兵衛の亡妻の妹
夫婦（加東大介、東郷晴子）、鉄工場主磯村（森繁久弥）が絡む筋立て。焼け棒杭（ぼっく
い）に火がついてよりが戻った昔の女（浪花千栄子）やその娘（団令子）の家で、ぼっく
り逝ってしまう万兵衛の気ままな姿を、ユニークに描いている。

孫とかくれんぼしながら、長女（新珠、好演）の厳しい眼をすり抜けて昔の女（浪花、
好演）に通う万兵衛（鴈治郎、好演）の飄逸さ、その死の密葬で火葬場から出る煙を見な
がら、農夫婦（笠・望月）がつぶやく。「ああ、誰ぞ死んだんやわ、けむりが出とる。」

「うーん、けど、死んでも死んでも、あとから、せんぐりせんぐり生まれてくるわ」「そや
な、よう出来とるわ」。さり気ない会話が、永劫回帰の輪廻感につながってゆくなど、流石、
秀逸な小津映画となっている。

ラストシーンの葬列の黛敏郎の音楽も、彼の傑作『涅槃交響曲』（ネハンシンフォニー）
が思わず蘇る優れた曲だ。



ASIA
CENTER
MULTIMEDIA

名画サロン

アジアセンターODAWARA名画サロン

1. 内 容 映画鑑賞「小早川家の秋」／ランチ／シネマトーク
2. 日 時 2001年7月21日(土) 10時～14時30分
3. 会 場 「箱根の間」
4. プログラム

□映画「小早川家の秋」	10:05～11:50
□ランチ	12:00～12:50
□シネマトーク「追悼・新珠三千代」	13:00～14:30
5. 募集人数 100名
6. 会 費 2000円
7. 送 迎

□迎え アジアセンター専用バス(無料)	小田原駅西口ロータリー9:30 藤棚前 9:40
□送り	同上 14:40頃



アジアセンターODAWARA映画サロン・記録

日時	上映作品	ランチメニュー
第1回 平成8年6月29日	「晩春」	ビーフカレー
第2回 平成8年9月28日	「東京物語」	ハッシュドビーフ
第3回 平成9年1月25日	「生きてはみたけれど」	子牛のドリア
第4回 平成9年4月26日	「麦秋」	ちらしずし／ビーフカレー
第5回 平成9年7月21日	「秋刀魚の味」	うな玉／ビーフカレー
第6回 平成9年11月15日	「彼岸花」	サーモン丼／ハッシュドビーフ
第7回 平成10年2月7日	「秋日和」	天ぷらうどん／ビーフシチュー
第8回 平成10年6月6日	「お早よう」	ちらし寿司／カニドリア
第9回 平成10年10月24日	「戸田家の兄弟」	ビーフカレー／うな玉
第10回 平成11年2月13日	「浮草」	サーモン煮／シーフードドリア
PART II No.1 平成11年8月21日	「紺碧の空遠く」	ちらし寿司／シーフードカレー
No.2 平成11年12月4日	「東京暮色」	ハッシュドビーフ／てっか丼
No.3 平成12年3月18日	「水戸黄」	海鮮丼／ドリア
No.4 平成12年7月22日	「お茶漬の味」	うなぎ／シーフードカレー